

<9月第1例会 議事録>

書記 杉本隆人



・日時:2016年9月15日(木)19:00
~20:40

・場所:西神戸YMCA

・出席者:合田、佐伯、杉本、舘、
達、田辺、丹家、中村、西田、野
呂、藤井(メネット)合田、佐伯、宗利

・強調月間:(活動) Menettes

(ステートメント)各クラブでメネット例会を企画し、国内プロジェクトへの理解を深めて下さい。ワイズは、家族で参加できるボランティア団体です。ファミリーでの活動と呼びかけ広めましょう!

1. 開会式

(1) 開会点鐘:会長、ワイズソング斉唱:全員、
今月の聖句朗読:ドライバー

(2) ビジター紹介:

井之上温代元びわこ部部长(滋賀蒲生野クラブ)
石丸由理ワイズ(東京武蔵野多摩クラブ)

(3) 9月誕生日お祝い:杉本 隆人(9/5)

2. スピーチ:井之上温代 氏

「二人で歩く北極圏」という講話。ご夫婦二人だけで北欧・スウェーデンでの50日余りのトレッキングの様、プロジェクターを使って話して下さいました。

過酷な行程にも関わらず、自然の雄大さと美しさに魅了された旅のあれこれを語っていただきました。



今月の例会にDBCを結んでいる東京武蔵野多摩クラブの石丸由理さんが来訪下さり、楽しい例会のひとつをもちことができました。石丸さんは、居酒屋での二次会にも参加下さり、ざっくばらんで、にぎやかに懇親を深めることができました。

3. 報告事項

(1) チャリティーラン協賛委員会9/6(火)神戸YMCA
カレッジにて

・協賛委員長には、上杉徹 六甲部Yサ主査(神戸西



クラブ)

・現在パンフレット作成中で9月15日頃完成予定(支援金依頼)

・協賛金・協賛物品獲得に向けて、神戸地元企業・拠点を置く企業にパンフレットを送る

・次回は、10月26日(水)19:00~

(2) 神戸YMCAセミナー

11月26日(土)神戸教会13:30~

「いま、そしてこれからのYMCA~非常時のYMCAの活動から」

関田寛雄氏(青山学院大学名誉教授)、神保勝巳氏(熊本YMCA本部事務局長)、ジェフリー・メンセンディーク氏(関西学院大学宗教主事)

4. 10~11月行事

・10/1(土)六甲部ローンボール大会

・10/6(木)第二(事務)例会

・10/22(土)ワイワイまつり(第一例会)

・10/22(土)23(日)次期役員研修会(ホテルクライトン新大阪)杉本次期六甲部部长

・10/27(木)第二(事務)例会...11月3日チャリティーランに向けて

・11/3(木、祝)第19回神戸YMCA国際チャリティーラン

5. その他

・区報第1号、メネット報第1号を配布。

<10月第2(事務)例会議事録>

会長 藤井久子

・日時:2016年10月6日
(木曜)19:00~21:00

・場所:西神戸YMCA

・出席者:阿部、佐伯、舘、
達、田辺、中村、西田、野呂、
檜木、藤井、阿部メネ



1. 報告事項

(1) 各部会予定

・10月8日(土)びわこ部会

- ・10月15日(土) 瀬戸山陰部会 杉本メン、中村メン(檜木メン?)、メネットアワー 藤井
 - ・10月29日(土) 西中国部会 藤井
 - ・11月12日(土) 六甲部部会
- (2) チャリティーワイン(9月30日) 参加者54名(合田夫妻、中村メン、檜木メン)
- (3) 六甲部交流ローンボール大会(10月1日) 参加者20余名、我がクラブ:杉本メン、中村メン、合田夫妻(指導員)
- (4) チャリティーラン実行委員会(10月5日)(14日に延期)
- (5) 次期西日本区大会準備委員会(10月5日) 六甲部全体で西日本区大会にあたる。役割等は次回(11月7日)に決定する。杉本次期六甲部部長、藤井次期六甲部会計が参加予定。
- (6) 六甲部会参加予定 申し込み締切 10月15日
- ・日時:11月12日(土) 午後2時~7時(登録午後1時30分)
 - ・場所:ラッセホール
 - ・会費:6,000円
 - ・参加者:阿部夫妻、佐伯、杉本、舘、田辺、中村野呂、檜木、藤井
 - ・メネットアワー
- 日時:11月12日(土) 12:30~13:45
場所:ラッセホール
講師;フリースクール箱崎自由学舎「エスペランサ」代表小田哲也ワイズ

2. 協議事項

- (1) 次期クラブ・六甲部役員体制案
六甲部:杉本部長、中村書記、藤井会計
クラブ:田辺会長、佐伯書記、野呂会計
- (2) ジャガイモファンドは今期中止する
- (3) 六甲部部会でのクラブ紹介について
・パワーポイントにまとめる。

3. その他

- (1) (YMCA) 130周年記念ハンドベルコンサート・
- ・10月8日(土) 15:30開演
 - 日本基督教団神戸栄光教会
 - ・全国リーダー研修会
 - 10月8日~10日余島野外活動センター
 - ・明石駅南に新しい活動拠点
 - 明石市より運営委託を受ける。
 - 保育室(保育士を募集中)、中高生の広場、親子交流スペース
- (2) 会計より
- ・黒ニンニクの代金64万円の内、40万円支払い

済み。販売促進をお願いします。

- (3) ワイワイまつり
- ・必要物品購入はYMCA。必要あればワイズもお手伝いする。
 - ・前日10月21日(金)10時集合:もち米の洗浄・浸漬、器具確認・洗浄する。
 - ・入江幼稚園への蒸し器等借用は、中村メンと佐伯メンに依頼
 - ・当日餅つき要員のボランティア募集のポスター掲示を西田メンに依頼
- (4) チャリティーラン(11/3)
- ・10月27日(木)事務例会にて協議する。

<大自然と歴史の交響曲スロベニア・クロアチアハイライト9(3/?)> 丹家元陽メン

(前号よりの続き)



2015年8月19日(水)
AM6起床。朝食までの時間、船着き場までの散歩。昨日のあの騒々しさが嘘のように静まり返った湖の色のグラデーションが美しい。気温16℃。

今朝は次の目的地Sibenikまで約190Km、3時間程の移動。緑豊かな湖群から南下するにつれて木が低くなり、平原の左手のかた先の山脈の向こうはボスニア・ヘルツェゴビナとのこと。そして、右手のアドリア海に近付くにつれて、山に木がなくなり岩山が目立つようになってきた。

その昔、ヴェネチアを造る時に、無数の大木を切り倒して沼に杭を打ち、更にその上にここから切り出した石を敷いた。それ以来、山の木が無くなってしまい、今も荒れた山になってしまっているとの話。

シベニク着。生憎の雨だが、まずは昼食のレストランへ。念願のアドリア海に面した港町。ヨットを繋いだ海岸沿いにある。Karlovačkoのビールが心を癒し、前菜はタコサラダ。ぶつ切りのタコとトマト、玉ネギとオリーブオイルのコンビネーションが素晴らしい。メインのシーフードパスタ。大粒のムール貝、シュリンプにアルデンテのパスタのハーモニーに白ワインが自然に勧む。そしてフルーツカクテルで大満足。

ここシベニクの世界遺産は聖ヤコブ大聖堂。1431年から1515年にかけて造られ、時代と共に当初のゴシック様式からルネッサンス様式へと変更されている。外観で目を引くのが東側の壁に並べられた人間の頭の彫刻で、当時この教会の建設に当り寄付をした有力者たちがモ

デルという。北側の入口は「ライオンのドア」と呼ばれ、アダムとイヴやライオンの像が彫られている。大聖堂は全て石材だけでできていて、回廊の上のバラ窓が美しい。更に階段を少し降りた所にある洗礼堂。そんなに広くないが、この天井に彫られた羽根の生えた天使達の愛くるしい姿の彫刻が実に素晴らしい。さすが世界遺産。

バスは更に南下して次の Trogir まで約 60Km。アドリア海の東側の海岸線は入り組んでいて、山からすぐ海になり、海岸線にはほとんど砂浜はなく岩なので、海はすぐ深くなり入江のあちこちが小さな港となり、ヨット、レジャーボートがゆったりと繋いである美しい光景。

まだ小雨だがトロギール着。ここは、周りを城壁に囲まれた周囲 2Km 程の小さな島で本土とは約 30m 位の石橋でつながっている。橋からすぐの巾 2m 位の北門から入る。島全体が美術館の感じ。入ってすぐ左側にある聖ロヴロ大聖堂も世界遺産。気の長い話で 13 世紀初めに建築が始められ 17 世紀に完成したという。

入口の像はにぎやか。まず右側には下からドラゴンを制圧している獅子像。これはヴェネツィアの聖マルコのシンボル。その上にアダム像。これは罪の象徴。左側は二匹の子羊を抱える羊を押さえている獅子像。その上にイヴ像。その上には、イエス誕生や生涯を彫り十二の月のシンボルを取り入れた像もあるが一部未完成。一番下にあり入口の柱を支える男達はアラブ人やユダヤ人の異教の民。つまりキリスト教勝利のシンボルとのことで、これは一種の驕り。

大聖堂内はルネッサンス様式で天井や壁の彫刻も素晴らしい、中でも天井に逆さに作られた守護神は珍しく、御愛嬌。このトロギールで有名なのが紀元前 3~4 世紀に造られたという「カイロス」君。特徴は頭で前髪はあるが後髪がなく、つるつろげ。前からはつかめるが、後からはつかめない。つまりチャンスは逃がすなどの意味。

家内はカイロス君のシルバーペンダントトップを、私は壁掛け用のレリーフをゲット。これが後に威力を発揮することに。橋を渡って本土に戻る時には晴れ上がり、まばゆいばかりの光がアドリア海を照らし、これぞ南欧の風景と心躍る。

そして、更に南へ約 30Km、1 時間弱で今夜のホテルのある Split へ。ここスプリットは地中海クルーズ、エーゲ海クルーズの大型客船が必ずといっていい位入ってくる港町。海辺に立つメリディアングランドホテルラブは正にリゾートホテル。館内は広く専用のプールとビーチ、そして小から大のクルーザーが停泊する港まである。部屋の料金表を見ると 12 時間貸切で長さやキャビン数の違いにより 21~84 万円。1 週間貸切で 150~630 万円位。これで商売できるリゾートホテルのスケールに溜息が。

夕食前の一時、ホテル内のショップを巡る。流石リゾートホテルだけあって、ビーチファッションが充実。子供や孫達にポロシャツやビーチサンダルを仕入れる。特にこのビーチサンダルは白地にブルーの濃淡をつけた魚達が戯れるデザインがかわいい。

夕食は海に見えるレストランでのバイキング。一人前の量が多いので色々の中から少しずつ頂けるのもありがたい。生ハム、ローストビーフ、ステーキ、チキン、ハンバーグ、ソーセージ、鱈のソテー、イカ、ラザニア、ラタトゥーユ、ポテト、パスタ、オムレツ…果物、数々のデザートと約 100 種類。勿論、ビールとワインは欠かせません。

外を見ると丁度夕日がアドリア海に沈む所。薄暗くなるとテラスではギターを生演奏に若い女性のソロで盛り上がり正にリゾートホテルを満喫。そして岸壁に連なるレストランも満席の賑わいで夜も更ける。24℃。

2015 年 8 月 20 日 (木)

晴、気温 22℃で清々しい朝。まずは、海岸を散歩して朝食を頂く。今朝はスプリット市内観光。アドリア海沿岸の最大の港町であり、3 世紀に造られたローマ皇帝ディオクレティアヌスの宮殿がそのまま旧市街になり、その広さは南北 215m、東西 180m あり、周囲を高さ 20m、厚さ 2m の巨大な壁で囲んでいる。

宮殿の半地下には巨大な柱で支えられた広い空間があり、倉庫として使われていたり、ワインやオリーブオイル作りにも使われていたが一時はゴミ捨て場となっていた。今はきれいに片付けられて音楽会や演劇会場として使っている。

地上に上るとそこは大聖堂の入口。もともとはディオクレティアヌス帝の霊廟として建てられたが、後にキリスト教の教会として使われるようになったとの事。この前庭が広間になっており、その昔は皇帝の私邸の玄関だったが今はその天井に穴が開いている。この前庭には男性合唱のクラブ(アカペラのコーラス)が陣取っていて素晴らしいハーモニーにウツリ。ここで初めてアカペラの意味を知った。アカペラとはクーポラの下で歌う人のことで、音響効果抜群で納得。これを取り囲むように大勢のギャラリーが居て 2~3 曲歌うと、メンバーの 1 人が CD を売りに来た。1枚 15€。日本人は気前がいいのか何人かが買っていた。次に私が行こうかなと思っていると家内がスーッと前に出て買っているではないか。更にこっちへ来いと言われ、家内だけがメンバーの中に入れてもらい記念写真となった。これぞ前日買ったカイロス君の御利益で家内は大はしゃぎ。

さすがに昔の街だけあって銀行の中にも、当時の柱や壁がそのまま使われている。そして近くの宝石店で 7

月末に長男を産んだ次女の土産にホワイトゴールドのイヤリングを。

そうこうするうちに昼食のレストランへ。いつものようにビールでうがいをして、前菜はシーフードサラダ。エビ、イカ、ムール貝、タコ、アサリにトマト、ルッコラが花を添え、美味。白ワインを飲みながらのメインはシーフードリゾット。大きなムール貝にイカ、小エビの入ったリゾットはさすが。いつまでもその余韻を楽しめる。デザートはバナナとチョコレートのアイスクリーム。27℃。

ここから更に南へ約210Km、約4時間近くのドライブで、この旅最後の目的地、そして最大の期待の**ドブロヴニク**へ。道路は右手にアドリア海、左手に岩山といった海岸線を走る。途中の広大な畑にはオレンジ、プラム、イチジク、スイカ、リンゴ etc.の果樹園が広がり道の両側にはこれらの新鮮な果物を山と積んで売っている露店がずらりと並んでいる光景は見事。

道中、色々な話をガイドさんから聞く。クロアチアの平均寿命は男71才、女74才とかなり短い。失業率はバカンス客で賑わう夏場は17%、冬場は23%。医療費は無料だが、医師としての職業の人気は低いとの事。なぜならば、給料が安いから。

幼稚園から小学校に入るのには個人差があり、この子はもう入っていいだろう、でもこの子はまだ幼稚園がいいだろうと決める人がいて、6ヶ月から1年の差がある。小学校は6年、中学校はなく高校が4年で義務教育は8年間だという。そして大学進学率は70%もあり無料。しっかり勉強しないとイケないので、アルバイトをする暇がない。

走ること、2時間半。道の向こうに青い屋根のゲートが見えてきた。国境との事。国境？同じ国を走っているはずなのに何故？これには訳があった。元々クロアチアはアドリア海の東側に南北に長い海岸を持つ。しかし、東隣のボスニア・ヘルツェゴヴィナには海がない。ロシアを見ても解るように常に海を求め、港を求めてプライドを捨て食欲に南下する。太平洋戦争終了実際のドサクサにまぎれて、北方領土をぶん取り、またごく最近では突然のクリミア半島の略奪。今は中国も兄貴と同じことをしている。「和をもって尊しとなす」とするクロアチアの政治方針として将来の争いを無くする為にわざわざ約20Kmの海岸線は無償で譲渡した歴史があるとの解説に感心。国境でのやりとり。ドライバー「ヤポン」・・・「OK」でパス。

次の国境では再度クロアチアに入るの、国境線で停車しただけで「OK！」。あと、町まで1時間程の所のスーパーマーケットで休憩。こういう所が楽しい。ガム、チョコレート、ドロップ、お菓子etc.中にはこのワインが有名と買う人もあり。中でも一番人気だったのが軽やかなコックさ

んがプリントされた袋入りの「VEGETA」という食卓塩にハーブ等の香辛料が入った物。ツアー仲間の方が知人から頂きドレッシングの代わりにサラダに少し降りかけると「不思議な味がする」と言われ、お土産にいくつか買っておられた。それではと、とにかくお土産は軽い方がいいと皆の話が一致し、私達も子供達用に仕入れた。今も食卓の上にあって生野菜本来の旨みを引き出してくれるこの不思議な味を楽しんでいる。

ここドブロヴニクも天然の良港で夕方クルーズ船が出航していく所だった。ホテルは旧市街手前の小さな岬の先端で、海の眺めが素晴らしい。

この夕食もバイキング。この地方を代表する料理数10種類の中からチョイスでき、自分達のペースで楽しめるのもいい。まずビールが先に飛び込んでいき、大きいお皿を持ち、前菜となりそうな物を乗せる。ここでもラトゥーユは欠かせない。数種類のトッピングを入れたオムレツも、目の前で焼いてくれる。パスタもサッサッと。魚、おいしいイカのソテー、お肉と主菜もバランス良く摂る。白ワインをゆっくりと味わう至福の時間。デザートにはおいしい生イチジクも。PM8:00 アドリア海にゆっくりと夕日が落ちていく。夕食後、海辺のテラス先では結婚式後の披露宴が始まっていた。

2015年8月21日(金)

いよいよ明日は帰国するので今日が最後の観光。そして一番楽しみにしていた日。朝25℃、快晴。ドブロヴニク旧市街の背後にそびえるスルジ山。AM9:00 まだ混む前なのでロープウェイには待たずに乗れた。標高412mの山頂まで5分の空中散歩。昇るにつれて旧市街の全体が見えメンバー一同、ワイワイガヤガヤと大興奮。

山頂からの景色。まずは地球が丸いのを確認。そして眼下には青い海をキャンパスに白い城壁、その中にオレンジ色の屋根を乗せた白壁の家がぎっしり、しかも規則正しく建ち並ぶ様は見事。正に「アドリア海の真珠」と言われている通り。

この山頂にはその昔、ナポレオンが贈ったという十字架が立っていて、今あるのは独立戦争後に建て直されたものとのこと。この根元の所から見るのが一番のビューポイント。正にガイドブックや絵葉書そのもの。後ろ髪を引かれる思いで下山し、街の見学開始。

旧市街に入るのは西側のピレ門から。分厚い城壁に入るとそこは、メインストリートのプラツァ通り、巾20m程の真直ぐな通りだが、300mで港に出る。両側にはレストラン、土産店が並び、大勢の人で大混雑。入ってすぐの右手には、近くの山から水を引いたオノフリオの大噴水があり、地元の人達は平気で飲んでいるが我々は少し遠慮した方がいいとの話。

左手にはフランシスコ会修道院。14~15世紀に建てら

れ修道院内のロマネスク様式の回廊の壁には病める人々を癒す修道僧の姿が描かれていて、中庭の緑も美しくホッとさせる空間。そして、特筆すべきことはヨーロッパで3番目に古い薬局があり、今でも営業している。又、ユーゴ紛争の時に、ミサイルが貫通した穴と、止まって凹んだ壁がメモリアルとして残してある。

通りの先の左側には、スポンザ宮殿がありドブロヴニクの歴史文書と共に紛争の時に壊された街の様子が展示されている。1991年からの紛争により、この街の6割が破壊、消失したとのこと。今はその跡は全くみられず、見ごとにその昔のままに復元しているのに驚嘆すると共に敬意を払う。

突き当たったこの通りを右に曲がった所にあるのが総督邸で、共和国時代は、行政の心臓部だった所で今は文化歴史博物館となっていて、前のテラスは大盛況のレストラン。この前の広場を横切った所にあるのが、青空市場で例の如く、野菜、果物、土産物の屋台がずらっと並び、干しイチジクを仕入れる。どこの街に行っても、中心地に青空市場があるのは楽しいし、うらやましい光景。

ここまで来たのなら、海の方からドブロヴニクを見ようという話がまとまり、約20人乗りの船をチャーターして出航。青い空、そして青い海、海の爽やかな風で上機嫌。港の外に出ると、城壁が岩の上に建っているのがよ

く解る。大きな波がザブンザブンと岩に当たっている。しかし、その海に岩から飛び込む連中がいる。日本ならばその岩のあちこちに「遊泳禁止」と大きく書いてあるはず。しかし、ここではそんな無粋なことは全くなし。これが自己責任という成熟した社会と納得。船は沖に進み周囲3Km程のロクルム島を一周するコースで約1時間の予定。このロクルム島にも砂浜はなく、皆、岩から飛び込み、岩に付けてあるプールから上がる時と同じ鉄梯子を登って上りようになっている。そして、この島の東海岸はヌーディストビーチになっていて、数10人の男女が思い思いの格好で立ったり、坐ったり、寝そべったりしているが、岩場だけに痛くないのかなと要らぬ心配をした次第。潮風に当たるとよけい腹が空く。

今日のランチはフリーなのでガイドさんお勧めのレストランへ、4人の家族連れの方達と6人で行く。まずはビールビールと頼み、今の日本の大ジョッキ位の1/3が一気に蒸発してしまいプハーッ。とにかくクロアチアでは一人前の量が多いので単品で頼む。白ワインと共に生ガキがトロけるように口に入る。ムール貝のワイン蒸し、エビのオリーブ炒め、イカのソテー、小魚のフライ、イカスマリゾットを満喫。食後の皆の感想。今回の旅行で一番おいしかった！充分英気を養って、いざ城壁一周の旅
(次号に続く)

< 今月の聖句 >

復讐してはならない

だれかが右の頬を打ったならば左の頬をも向けなさい

(マタイによる福音書 5:38~41)

「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。

あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。だれかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。

『目には目を、歯には歯を』は旧約聖書の「モーセの律法」にある言葉(元はハムラビ法典にある言葉)。誰かと争って相手を傷つけたとき、傷つけたのと同じだけのダメージを自分が負わなければならないというもの。報復の拡大を抑えるという点では、なかなかの法と言える。

ところがイエスは、報復そのものをやめて、相手によくしなさいと言う。当時は裁判にかけられて下着を取り上げられることはあっても上着までは召しあげられなかった。にもかかわらず、イエスは貧しい人には夜具にもなる大切な上着を相手に渡せ、ローマ兵に強制されて荷を負わされて一ミリオン(約1.5キロメートル)行かなければならないときはそれを超えて共に歩め。このようなことを自分の意思でやるとき気持ちは相手に勝っている。相手を大きな心で包み込んでしまう。これがイエスの戦わずして勝つ方法だ。使徒ペテロが自分に罪を犯した者を何回までゆるせばよいのですか、七回までですか、と問うと、イエスは「否、われ『七度まで』とは言わず『七度を七十倍するまで』と言うなり」と答えた。

～『声に出して読みたい新約聖書』齋藤孝著 草思社より～